

# 第1章 計画の概要

## 1 計画の目的

盛岡広域スポーツコミッション（以下「コミッション」という。）は、希望郷いわて国体・いわて大会の盛岡広域首長懇談会・国体部会が発展的に解消し、平成29年3月に設立された。平成29年度から令和4年度の6年間の第一次盛岡広域スポーツツーリズム推進計画（以下「第一次計画」という。）では、コミッションは盛岡広域圏（以下「広域圏」という）に属する盛岡市、八幡平市、滝沢市、雫石町、葛巻町、岩手町、紫波町、矢巾町の各市町（以下「各市町」という。）の取組が効果的・効率的に推進されるよう連携・支援を行ってきた。これまでの取組を振り返り、コミッションだからこそ実現できた数々の事業の実績を踏まえ、広域圏のさらなる魅力の発信と賑わいの創出を図るため、第二次盛岡広域スポーツツーリズム推進計画（以下「第二次計画」という。）を策定するものである。

## 2 計画の位置づけ

広域圏におけるスポーツツーリズムの推進及びスポーツ施設の利用促進への取組は、広域圏の連携中枢都市圏構想である「みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン」の具体的施策に位置付けられており、取組により広域圏のスポーツ資源をつなぐことで、人やモノの流れの活性化や住民のスポーツ活動機会の充実につながるものである。

また、スポーツツーリズムを効果的かつ効率的に推進するため、コミッションが中心となって取り組むこととするが、いうまでもなく各市町が単独で取り組むスポーツツーリズム施策を妨げるものではない。

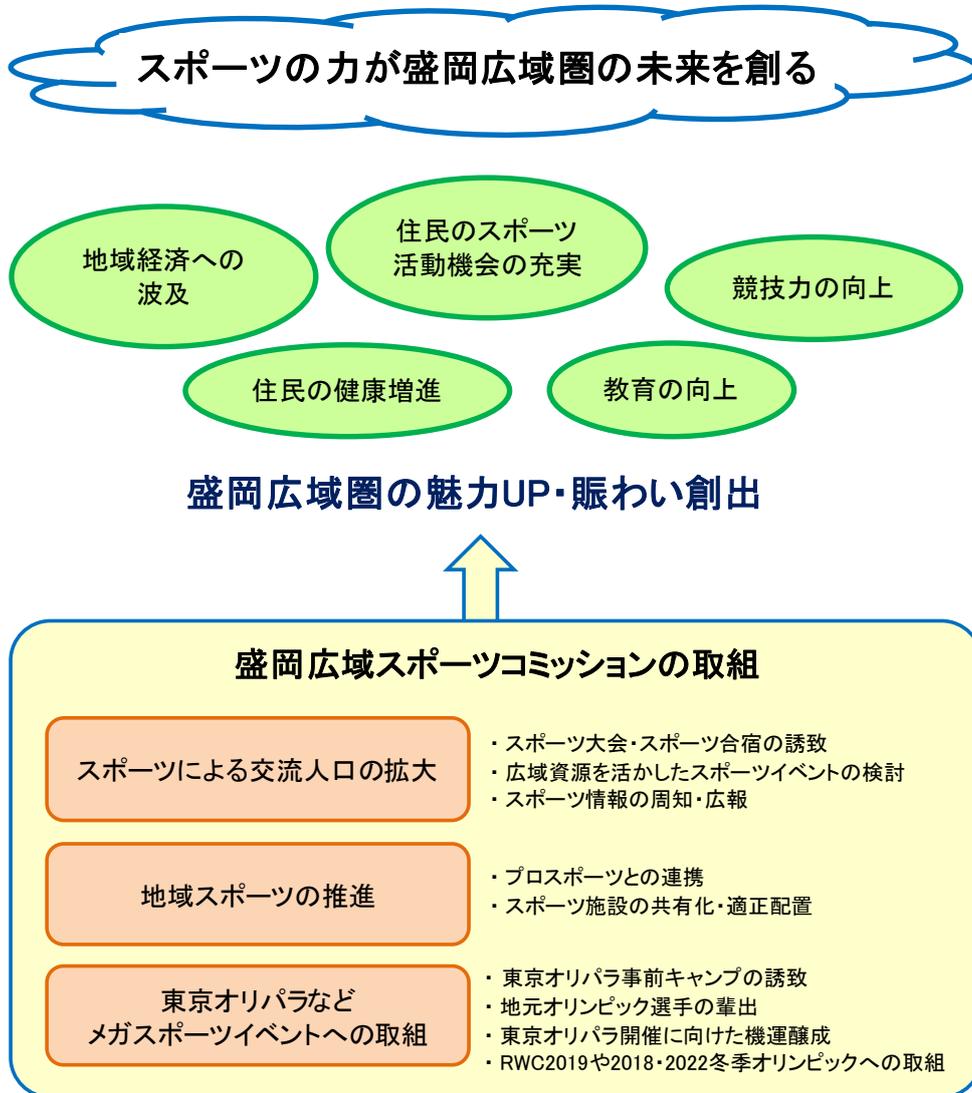
なお、本計画においては、国が進める外国人観光客誘致を中心とした“スポーツツーリズム”の枠を越えて、スポーツツーリズムを広義に捉え、スポーツを通じた賑わいの創出や地域振興に結びつく取組全般と定義する。

## 3 計画期間

第2期みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョンの計画終期に合わせ、令和5年度（2023年度）から令和7年度（2025年度）までの3年間とする。

## 第2章 現状と課題

コミッション設立時に策定された第一次計画を検証する。



▲第一次計画の基本方針実現に向けた仕組み（イメージ）

### 1 前計画基本的施策における取組の成果と課題

#### (1) スポーツによる交流人口の拡大

##### ア スポーツ大会・スポーツ合宿の誘致

##### ■成果

- ・TOKYO2020 ホストタウン<sup>1</sup>事業では、盛岡市と合同で紫波町がカナダのホストタウンとなり、バレーボールカナダの事前合宿誘致ができた。
- ・コミッションのウェブサイトを活用し、各市町の情報を配信した。

<sup>1</sup> ホストタウン 東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて、大会参加国・地域の選手・関係者と地域住民との人的・経済的・文化的な相互交流を図る地方公共団体のこと。盛岡市・紫波町合同でカナダ、八幡平市はルワンダ、岩手町はアイルランド、盛岡市はマリ共和国のホストタウン。

	H29	H30	R1	R2	R3
大会・合宿誘致の件数	103	106	132	13	24

※みちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン事業から

#### ■課題

・一般社団法人日本スポーツツーリズム推進機構（JSTA）から提供された情報の収集や、いわてスポーツコミッションが主催する合宿相談会に参加し、広域圏の施設や補助制度をPRしたが、大会・合宿誘致実現に結びつけるには至らなかった。合宿を希望するチームや競技団体のニーズを引き続き情報収集し、誘致につなげていく必要がある。

### イ 広域資源を活かしたスポーツイベントの検討

#### ■成果

・各市町の特産品を1品ずつ集め、8品1セットとし、広域圏で行われるイベントで副賞として提供することによって特産品をPRする事業は好評である。大会開催地以外の特産品もPRすることができるため、事業効果も高い。

	H29	H30	R1	R2	R3
特産品の提供イベント数	-	12件 16個	15件 16個	7件 11個	6件 10個

#### ■課題

・特産品を提供したことがSNS等で情報発信されるような、二次効果につなげる工夫が必要である。  
・コミッションが主催者となるような広域圏の資源を活かしたスポーツイベントの検討は、実質的には行われなかった。広域圏で連携したイベントの可能性等について検討する必要がある。

### ウ スポーツ情報の周知・広報

#### ■成果

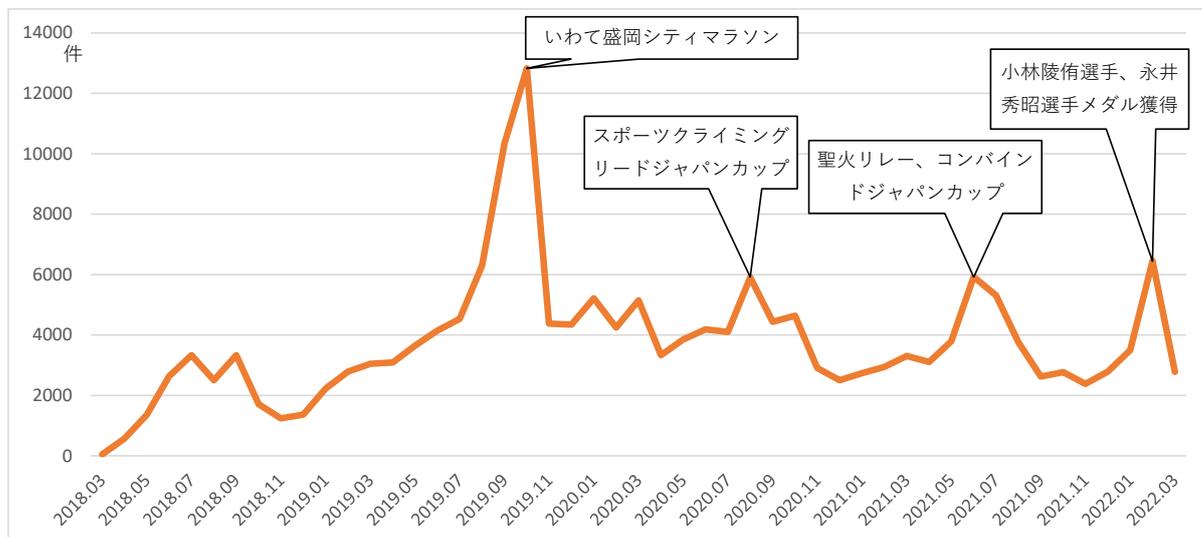
・ウェブサイトを通じたスポーツ情報の発信は、各市町単独の取組を補完する意味でも、コミッションならではの取組だった。  
・ラジオでの情報発信について、令和3年度に取り組んだ全8回の番組については、リスナーコメントからも好評だったことが伺える。令和4年度は、スポーツにあまり関心のない層にも情報を届けることができている。  
・地域スポーツ雑誌 Standard<sup>2</sup>によるエイト・オリンピックズ・プロジェクト<sup>3</sup>は、一般の読者に関心を持ってもらう手段として有効だった。掲載した選手の企業からも喜びのコメントをいただいている。

<sup>2</sup> 岩手スポーツマガジン Standard 編集部が作成するスポーツ雑誌。

<sup>3</sup> 盛岡広域ゆかりの選手・指導者に対して盛岡広域が一体となって応援していくことを目的としたプロジェクト。コミッションでは Standard に、「エイト・オリンピックズ・プロジェクト」を連載していた。

## ■課題

・各市町の情報発信力にも課題があるため、情報発信に特化した研修会やアドバイザーとの連携等を行い、コミッション全体として情報発信力を向上させていく必要がある。



コミッションウェブサイト閲覧数

## (2) 地域スポーツの推進

### ア プロスポーツとの連携

#### ■成果

・岩手県内にホームタウンを置くプロバスケットボールチーム「岩手ビッグブルズ」や、プロサッカーチーム「いわてグルージャ盛岡」に係る主催ゲームの運営ボランティア募集に協力できた。

	H29	H30	R1	R2	R3
ボランティアの参加人数	68	64	279	-	44
うち岩手ビッグブルズ・いわてグルージャ盛岡	26	43	42	-	44

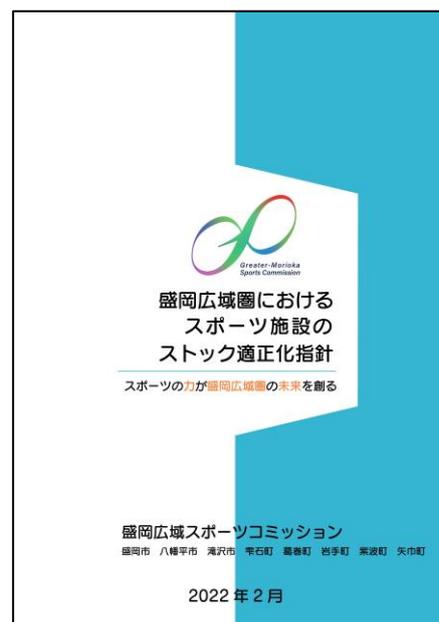
#### ■課題

・ボランティア募集に対して応募者が固定し、必ずしも期待したほどの人数が集まっていない。  
 ・当初想定していた地域住民とプロスポーツ選手との交流は、プロスポーツチームが主体となって既に各市町で実施されている。今後は、ボランティア募集を含めて、情報発信を中心に引き続き連携を続け、広域圏としてプロスポーツチームを応援する機運醸成を図ることが必要である。

## イ スポーツ施設の共有化・適正配置

### ■成果

・コミッション設立の当初から検討していた施設の共有化・適正配置について、平成29年度には住民意識調査、令和2年度には施設利用者へのアンケートと施設への聞き取り調査を経て、最終的に「盛岡広域圏のスポーツ施設におけるストック適正化指針」（以下、「ストック適正化指針」という。）としてまとめた。



### ■課題

・ストック適正化指針策定は、各市町が保有する施設の情報のデータベース化と、スポーツツーリズム施設等への今後望まれる機能について、認識共有が図ることができたが、今後は今回策定した「ストック適正化指針」をきっかけに、スポーツツーリズム施設の広域的補完・連携について具体的に議論していく必要がある。

・岩手県が整備凍結としている「スポーツ健康科学センター」をはじめ、県営施設の今後の展開に対するコミッションとしての関わり方について、方向性を共有する必要がある。

## (3) 東京オリ・パラなどメガスポーツイベントへの取組

### ア 東京オリ・パラ事前キャンプの誘致

#### ■成果

・盛岡市、八幡平市、岩手町、紫波町が事前キャンプを実施し、大型合宿の受入れノウハウを構築することができた。また、八幡平市の事前キャンプを盛岡市や雫石町の施設で実施するなど、広域圏で連携して実施することができた。

市町	競技	施設	国
盛岡市	水球女子	盛岡市立総合プール	カナダ
		盛岡タカヤアリーナ	
	スポーツクライミング	県営運動公園スポーツクライミング競技場 盛岡タカヤアリーナ	
八幡平市	陸上、自転車、競泳	県営運動公園陸上競技場 岩手県営屋内温水プール	ルワンダ
岩手町	ホッケー女子	岩手町ホッケー場	アイルランド
紫波町	バレーボール男子	オガール	カナダ
	シッティングバレー女子	オガール	

・コロナ対策や空港からの移動手段など、国の要望に対応するために情報交換を行った。

■課題

・事前キャンプの際はコロナ対策のため東京からバス移動となり、特殊な事例であったが、通常の合宿の際は、最寄駅からの移動が課題となっている事例が多く、そうした状況を考慮しながら誘致活動をする必要がある。

イ 地元オリンピック選手の輩出

■成果

・盛岡広域圏ゆかりの選手は 2016 年リオデジャネイロオリンピックでは 1 名であったが、東京 2020 オリンピックで 7 名、北京 2022 冬季オリンピックで 6 名、北京 2022 冬季パラリンピックで 3 名の出場と大幅に増加した。

・選手からは、祝電を送付したことに対する感謝の手紙が届いており、大きな励ましとなっている。

	H29	H30	R1	R2	R3
祝電の送付件数	8	0	4	4	17

・北京 2022 冬季オリンピックに出場した 6 名に対して似顔絵缶バッジを作製し、選手本人に送付したところ、大変好評でチームや応援してくれる方へ配付したいと追加送付の希望があった。



・Standard によるエイト・オリンピックズ・プロジェクトでは東京 2020 オリンピック・パラリンピックに出場予定や出場選手の特集ページを作成し、選手の活躍を広く PR することができた。

(Standard 2022 年 1・2 月号)

## ■課題

・Standardによるエイト・オリンピックズ・プロジェクトは、掲載回数を縮小するため、今後の情報発信の方法について検討が必要である。選手以外に、所属企業や指導者を含めたPRなど、コミッションの独自の取組を検討する必要がある。

## ウ 東京オリ・パラ開催に向けた機運醸成

### ■成果

・盛岡市と紫波町がカナダの共同ホストタウンであることに伴い、民間商業施設などでのPRを共同で行うことができた。

・各市町の機運醸成イベントの情報をコミッションのウェブサイトで発信した。

・Standardによるエイト・オリンピックズ・プロジェクトでは東京2020オリンピック・パラリンピックに出場予定や出場選手の特集ページを作成し、選手の活躍を広くPRすることができた。(再掲)

### ■課題

・エイト・オリンピックズ・プロジェクトの今後の継続のあり方について検討が必要である。

## エ ラグビーワールドカップ2019や2018・2022冬季オリンピックへの取組

### ■成果

・各市町の機運醸成イベントの情報をコミッションのウェブサイトで発信した。

・オリンピック・パラリンピックに出場した選手の試合結果をコミッションのウェブサイトで発信した。

・Standardによるエイト・オリンピックズ・プロジェクトでは東京2020オリンピック・パラリンピックに出場予定や出場選手の特集ページを作成し、選手の活躍を広くPRすることができた。(再掲)

### ■課題

・エイト・オリンピックズ・プロジェクトの今後の継続のあり方について検討が必要である。(再掲)

## (4) 全体に関連する取組

### ア 研修会の開催

#### ■成果

・毎年テーマを決めて行ってきた研修会は、適時適切な内容での実施であるとして、概ね好評だった。(詳細は資料編21ページ参照)

	H29	H30	R1	R2	R3
研修会の参加人数	26	8	9	13	7

## ■課題

- ・スポーツパル<sup>4</sup>会員にも情報配信しているが、参加者が伸び悩んでいる。
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症対策もありオンラインを併用して行ったが、参加者は微増に留まっている。今後は参加者に興味を持ってもらえるような工夫が必要である。

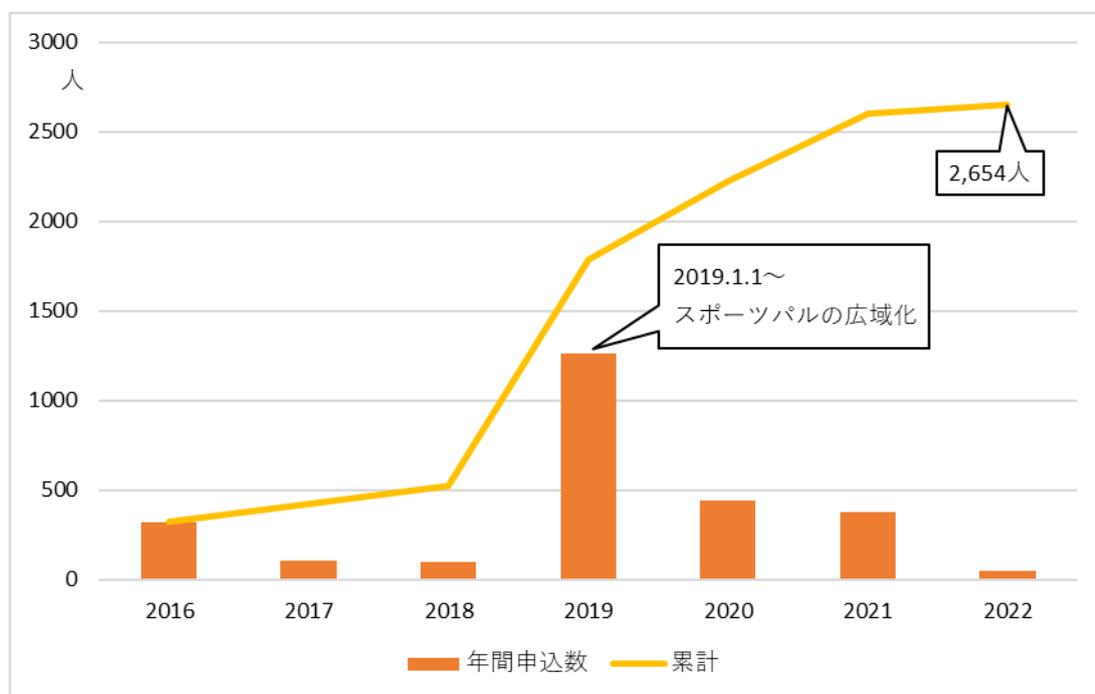
## イ スポーツパル制度の推進

### ■成果

- ・スポーツパル制度は、10,000人の目標に対して2,700人程度の登録であり達成率は約27%であった。
- ・当初盛岡市の事業として始めたが、平成31年1月に広域圏へ対象を拡大した。
- ・いわて盛岡シティマラソンのボランティア募集や、東京2020オリンピック聖火リレーの岩手県内のボランティア募集など、さまざまな事業と連携し、活用された。

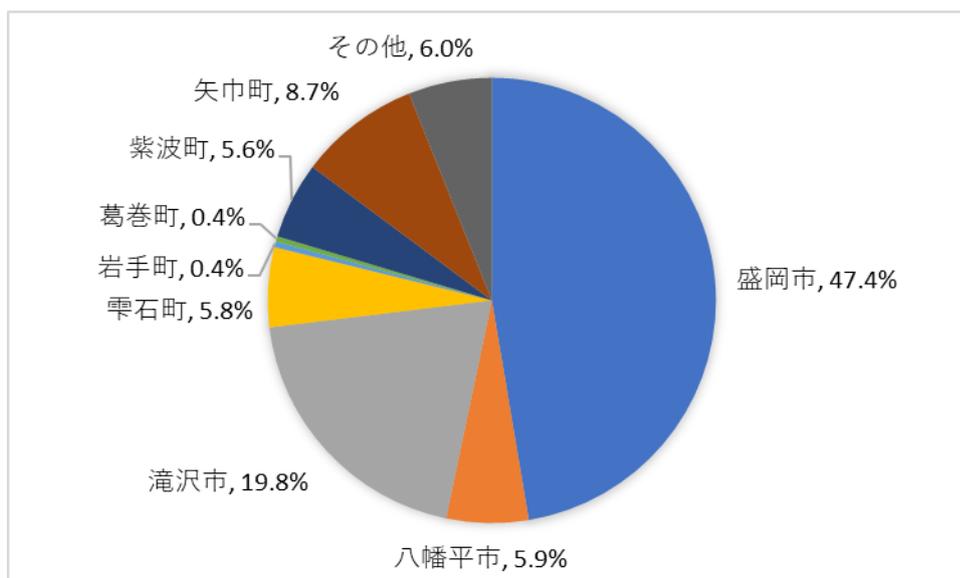
### ■課題

- ・施設利用やボランティア活動によるポイント管理の電子化、利用できる施設の拡大（県営施設の対象化）、交換グッズの魅力向上など、会員増加につながるための工夫の検討が必要である。
- ・ボランティア募集に活用しているが、「岩手ビッグブルズ」や「いわてグルージャ盛岡」のホームゲームボランティアでは応募者が固定し、必ずしも期待したほどの人数が集まっていないため、周知方法の工夫や気軽に参加できることが伝わるような情報発信の検討が必要である。

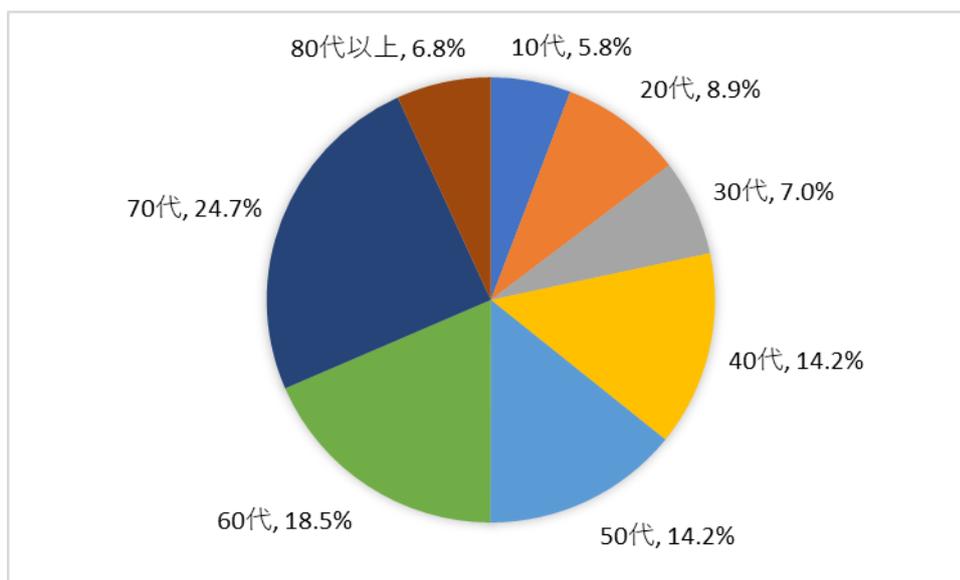


スポーツパル会員数の推移（令和4年3月31日現在）

<sup>4</sup> 盛岡広域で取り組んでいる、スポーツに親しみ、スポーツを支える住民のネットワークをつくり、地域住民がスポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができるまちづくりを推進するための取組。



市町別構成比（令和4年3月31日現在）



年齢別構成比（令和4年3月31日現在）

## ウ ログマークの作成

### ■ 成果

・盛岡市所属の地域おこし協力隊に依頼してコミッションの、ログマークを作成し、PR 効果 を高める一助とすることができた。

### ■ 課題

・ログマークが効果的に活用できていない。ログマークを活用したグッズの作成や、イベント 後援の条件に、「ポスターやプログラムへのログマークの使用」を加えるなど検討が必要である。

## 第3章 基本的施策

第一次計画及び東京2020オリンピック・パラリンピックをはじめとするメガイベントの成果と課題を踏まえ、次のとおり施策を再編する。

### 1 スローガン（継続）

## スポーツの力が盛岡広域圏の未来を創る

### 2 基本的施策

#### (1) スポーツによる交流人口の拡大

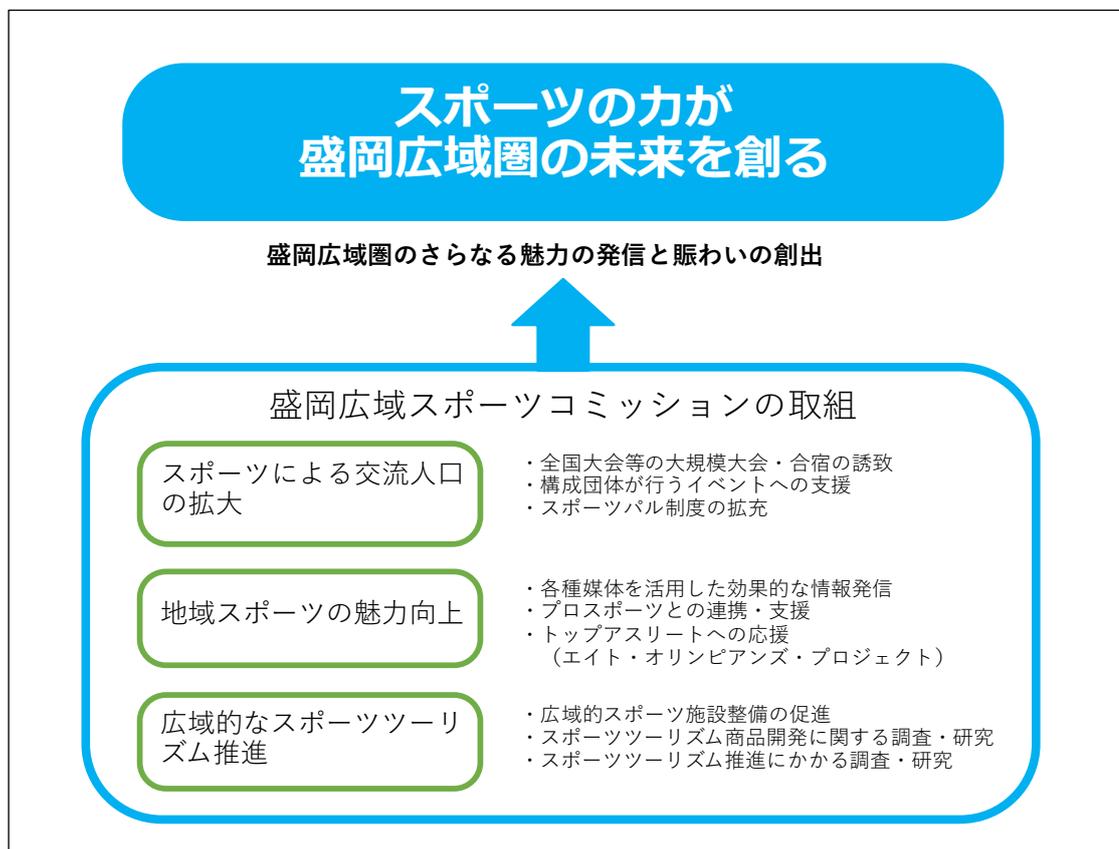
- ア 全国大会等の大規模大会・合宿の誘致
- イ 構成団体が行うイベントへの支援
- ウ スポーツパル制度の拡充

#### (2) 地域スポーツの魅力向上

- ア 各種媒体を活用した効果的な情報発信
- イ プロスポーツとの連携・支援
- ウ トップアスリートへの応援（エイト・オリンピックズ・プロジェクト）

#### (3) 広域的なスポーツツーリズム推進

- ア 広域的スポーツ施設整備の促進
- イ スポーツツーリズム商品開発に関する調査・研究
- ウ スポーツツーリズム推進にかかる調査・研究



## 第4章 施策の展開

第3章で示した計画の体系に基づき、以下に掲げる内容の事業を展開する。また、本計画の進捗管理には、現状を把握するための指標として「成果指標」を設定する。

### 1 スポーツによる交流人口の拡大

大規模スポーツイベント、プロスポーツの試合等の観戦型のスポーツイベント、マラソン大会等の参加型のスポーツイベント等の開催によりスポーツ観光客が増加することは、飲食・交通・宿泊・小売など観光関連産業の拡大に寄与し、地域経済の活性化につながるものである。また、東京2020オリンピックにおける広域的な事前キャンプ実施のレガシーを生かした合宿、いわてボールパークを中心とした広域圏での大学野球の合宿誘致など、スポーツ施設を利用したスポーツ大会・スポーツ合宿の誘致により、さらなる交流人口の拡大を図る。

#### ア 全国大会等の大規模大会・合宿の誘致

スポーツ大会やスポーツ合宿の誘致に向けて、各構成団体の人脈・交渉ルートから得た情報を共有するとともに、コミッションが競技団体等から得た情報を共有し、より効果的な誘致活動に取り組む。

##### ■具体的な内容

- ・大会・合宿誘致に関する情報の共有
- ・合宿相談会への参加
- ・広域圏共通のインセンティブの検討

##### ■成果指標

項目	基準値 (令和元年度)	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和7年度)
大会・合宿誘致件数※	132件	24件	149件

※目標値はみちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン事業と同様

#### イ 構成団体が行うイベントへの支援

これまでも各市町が開催しているマラソン大会等のスポーツイベントを更に盛り上げるため、広域圏の資源を活かした支援を行い、賑わいの創出と魅力の発信によるさらなる交流人口の拡大を図る。

##### ■具体的な内容

- ・イベントの後援・共催、特産品の提供

特産品の提供方法については、従来の提供方法のほか、イベント参加者のSNS投稿に対するプレゼントとするなど、魅力発信につながる方法を検討する。

##### ■成果指標

項目	基準値 (令和元年度)	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和7年度)
特産品提供イベント数	15件	6件	12件

## ウ スポーツパル制度の拡充

スポーツに親しみ、スポーツを支える住民のネットワークをつくり、地域住民がスポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができるまちづくりを推進するための取組である「スポーツパル制度」の周知と内容の充実に取組み、さらに会員の拡大を図る。

### ■具体的な内容

- ・ 県営施設、民間施設を中心とした対象施設の拡大
- ・ 会員特典の充実
- ・ スポーツパル会員同士の交流会の実施
- ・ 管理システムの整備など利便性の向上

### ■成果指標

項目	基準値 (令和元年度)	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和7年度)
対象施設数	39 施設	39 施設	42 施設
スポーツパル会員数※	1,952 人	2,654 人	10,000 人
スポーツパル交流会参加者数	9 人	6 人	20 人

※目標値はみちのく盛岡広域連携都市圏ビジョン事業と同様

## 2 地域スポーツの魅力向上

広域圏ゆかりの選手の活躍を知ることや、プロスポーツへの応援、イベントの盛り上げには情報発信が不可欠である。スポーツで地域を活性化していくために、コミッションとしての魅力的な情報発信のほか、選手や関係者、住民との双方向での情報のやり取りが可能となる取組を推進する。

### ア 各種媒体を活用した効果的な情報発信

広域圏のスポーツ施設やスポーツイベント情報を集約し、広域圏のスポーツに関するあらゆる情報を、多様な媒体を用いて積極的にPRし、国内はもとより、海外からのスポーツ合宿やスポーツイベントの誘致につなげる。また、広域圏のスポーツに関する情報を発信することにより、地域住民のシビックプライドの醸成につなげる。

#### ■具体的な内容

- ・ウェブサイト、メールマガジン、ラジオ、facebook、instagram、Standard などによる情報発信
- ・インフォ・マネージャー<sup>5</sup>の活用
- ・研修会の実施などによるコミッションとしての情報発信力の向上

#### ■成果指標

項目	基準値 (令和元年度)	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和7年度)
SNSのフォロワー数	—	—	10,000人
SNS投稿に対するコメント数	—	—	年間1,500件

### イ プロスポーツとの連携・支援

広域圏をホームタウンとするプロスポーツチームが全国や国際舞台で活躍することは、多くの住民に感動を与えると同時に、スポーツへの関心の高まりや競技人口の拡大、競技力の向上等、地域スポーツの推進に大きな影響を与え、他の自治体でもプロスポーツがまちの賑わい創出や地域の一体感の醸成に寄与する事例が多くある。引き続き、岩手・盛岡で活動している「岩手ビッグブルズ」や「いわてグルージャ盛岡」など、地域のスポーツ資源であるプロスポーツチームへの支援を通じて連携を図り、地域の活性化に取り組む。

#### ■具体的な内容

- ・スポーツパルを活用したボランティア募集、イベント関連の情報発信

#### ■成果指標

項目	基準値 (令和元年度)	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和7年度)
イベントボランティア参加数	279人	44人	100人

### ウ トップアスリートへの応援（エイト・オリンピックズ・プロジェクト）

広域圏からのオリンピック選手輩出を目指す「エイト・オリンピックズ・プロジェクト」

<sup>5</sup> インフォ・マネージャー コミッションとして、より円滑で効果的な情報発信を図るために各市町に1名設置した役職。主に各種媒体に掲載する原稿の作成及び確認を行う。

に継続して取組み、地元オリンピック選手を盛岡広域住民が一体となって応援する機運を醸成する。更に、オリンピック競技に限定せず広く世界で活躍する選手を対象とし、応援や周知広報に取り組む。

#### ■具体的な内容

- ・コミッションウェブサイト上への応援メッセージフォーム設置による、広域圏ゆかりの選手応援の機運醸成
- ・広域圏ゆかりのアスリートの情報収集
- ・お祝いメッセージの送付
- ・ウェブサイト、ラジオ、Standard への掲載による選手に関する情報発信

#### ■成果指標

項目	基準値 (令和元年度)	現状値 (令和3年度)	目標値 (令和7年度)
エイト・オリンピックズ人数	34人	35人	40人

### 3 広域的なスポーツツーリズム推進

令和4年2月に策定した「ストック適正化指針」では各市町が保有する施設の情報のデータベース化と、スポーツツーリズム施設等への今後望まれる機能について、認識を共有することができた。この指針を踏まえ、スポーツツーリズム施設の広域的補完・連携について検討する。

また、国が取り組むアウトドアツーリズム<sup>6</sup>や武道ツーリズム<sup>7</sup>を始め、競技スポーツにとどまらないスポーツツーリズムが推進されている。コミッションとしてもこれまで培ったスポーツツーリズムの基盤を生かし、さらなる広域的なスポーツツーリズムの推進に取り組む。

#### ア 広域的スポーツ施設整備の促進

「ストック適正化指針」に基づき、広域的視点に立ったスポーツ施設の適正配置に取り組む。

##### ■具体的な内容

- ・各市町が保有するスポーツ施設の状況確認
- ・県が保有するスポーツ施設に対する認識の共有、関係機関との連携

#### イ スポーツツーリズム商品開発に関する調査・研究

岩手県では、岩手の自然を生かしたスポーツアクティビティを通じた交流人口の拡大による地域活性化を目指しており、盛岡広域振興局においては、サイクルツーリズムの推進に取り組んでいる。全国的にも多様なツーリズムが生まれており、広域圏のスケールメリットを生かし、交流人口の拡大につながるような新たなツーリズムについて検討を行い、将来的に定住人口の獲得につながるようなツーリズム商品の調査・研究を行う。

##### ■具体的な内容

- ・県が取り組むアウトドアツーリズム推進への協力
- ・広域圏の特色を生かしたツーリズム商品の調査・研究

#### ウ スポーツツーリズム推進にかかる調査・研究

本計画や今後の取組を効果的に進めるため、広域的なデータの収集を行う。

##### ■具体的な内容

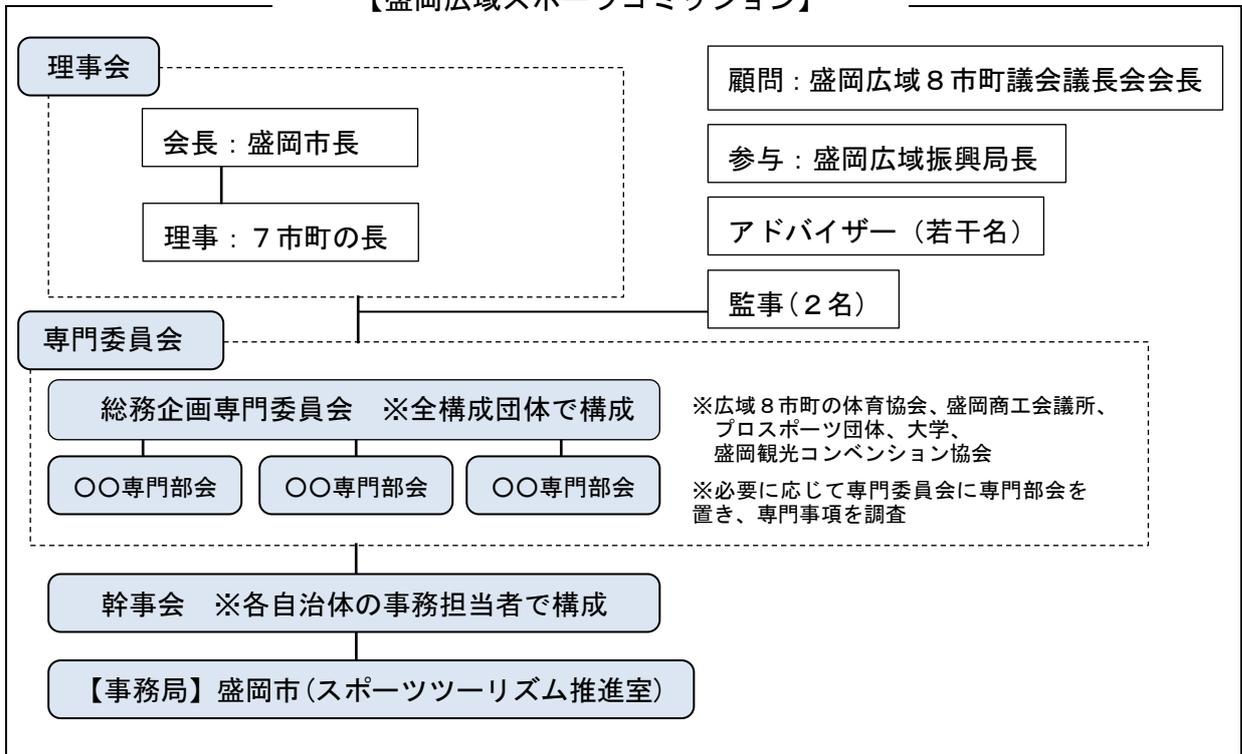
- ・第2回住民意識調査の実施

<sup>6</sup> アウトドアツーリズム 日本各地に存在する海・山・川・湖等の自然環境下で、その地域ならではの景観・環境・文化に親しみながら体験が可能な、身体活動を伴うアクティビティを楽しむツーリズム（スポーツ庁）

<sup>7</sup> 武道ツーリズム 武道や武術の見学、観戦、実技体験、施設見学等、発祥の地である日本でしか体験できない、スポーツと文化が融合した、希少性の高いツーリズム（スポーツ庁）

# 第5章 推進体制

## 【盛岡広域スポーツコミッション】



行政機関：県・市の施策との調整、合宿誘致交渉

スポーツ団体：地域スポーツの振興、競技力向上（アスリートの育成）

経済団体：スポーツによる交流人口の拡大、企業協賛支援

大学：大学レベルの大会・合宿の誘致、競技の普及・競技力向上に係る協力

観光団体：観光 PR や宿泊情報の提供



# 資料編

## 1 近年オリンピックにおける地元オリンピック選手の輩出

2016 年リオデジャネイロ オリンピック	高橋英輝（陸上競技・競歩）
東京 2020 オリンピック	佐々木千鶴（射撃）、吉田健人（フェンシング）、水本圭治（カヌー）、 及川栞（ホッケー）、瀬川真帆（ホッケー）、田中海渡（ホッケー）、 高橋英輝（陸上競技・競歩）
北京 2022 オリンピック	小林陵侑（スキージャンプ）、小林潤志郎（スキージャンプ） 永井秀昭（ノルディック複合）、谷地宙（ノルディック複合） 小西あかね（アイスホッケー）、土屋正恵（クロスカントリースキー）
北京 2022 パラリンピック	狩野亮（アルペンスキー座位）、高橋幸平（アルペンスキー立位）、 阿部友里香（クロスカントリースキー立位）

## 2 地域スポーツ雑誌「Standard」掲載による選手の紹介

盛岡広域スポーツコミッションウェブサイトでご覧いただけます→



掲載号	掲載選手
平成 29 年（2017 年）5、6 月号	伊藤ふたば（スポーツクライミング）
平成 29 年（2017 年）7、8 月号	梅村錬（ボクシング）・石塚将也（空手道）
平成 29 年（2017 年）9、10 月号	中村楓（サッカー）・川崎清純（ラグビー）
平成 29 年（2017 年）11、12 月号	永井秀昭（スキー）・小西あかね（アイスホッケー） 佐藤洗彬（スケート）・村竹啓恒（スケート） 渡部知也（スケート）・阿部真衣（スケート） 写真のみ
平成 30 年（2018 年）1、2 月号	小林潤志郎（スキー）・小林陵侑（スキー）
平成 30 年（2018 年）5、6 月号	平昌 2018 オリンピック出場選手 小林潤志郎（スキージャンプ）・小林陵侑（スキージャンプ） 永井秀昭（スキー・コンバインド）・小西あかね （アイスホッケー）
平成 30 年（2018 年）7、8 月号	エイトオリンピックアンズ名鑑
平成 30 年（2018 年）増刊号	藤原佑樹（スポーツクライミング・ルートセッター）
平成 30 年（2018 年）9、10 月号	近村健太（カヌー）
平成 30 年（2018 年）11、12 月号	熊谷萌（スピードスケート）
平成 31 年（2019 年）3、4 月号	瀬川真帆、田中海渡、及川栞（ホッケー）
令和元年（2019 年）5、6 月号	中野慎詞（自転車）・石塚将也（空手）
令和元年（2019 年）7、8 月号	曾我こなみ（スピードスケート）
令和元年（2019 年）増刊号	藤沢沙也加（陸上）・山田美来（陸上）
令和元年（2019 年）11、12 月号	吉田起子（ハンドボール）

掲載号	掲載選手
令和2年(2020年)1、2月号	川崎清純(7人制ラグビー)
令和2年(2020年)3、4月号	梅村錬(ボクシング)
令和2年(2020年)5、6月号	苫米地賢司・美智子(カーリング)
令和2年(2020年)7、8月号	及川栞(ホッケー)、伊藤ふたば(スポーツクライミング)
令和2年(2020年)臨時増刊号	スペシャルコラム(伊藤ふたば、及川栞)
令和2年(2020年)9、10月号	水本圭治(カヌー)
令和3年(2021年)1、2月号	岩舘直也、内記徹、小野幸一(不来方高校ホッケー部監督、男子ハンドボール部監督、カヌー部監督)
令和3年(2021年)5、6月号	植津悦典(盛岡工業高校スピードスケート部監督)
令和3年(2021年)7、8号	東京2020出場有力選手 佐々木千鶴(射撃)、吉田健人(フェンシング)、水本圭治(カヌー)、高橋英輝(陸上競技・競歩)、及川栞(ホッケー)、瀬川真帆(ホッケー)、田中海渡(ホッケー)、大石沙也加(陸上競技・短距離)
令和3年(2021年)9、10月号	吉田雪乃(スピードスケート)
令和3年(2021年)11、12月号	高村和人(クロスカントリースキー(視覚障害))
令和4年(2022年)1、2月号	小林潤志郎・小林諭果・小林陵侑・小林龍尚(スキージャンプ)、永井秀昭(ノルディック複合)、小西あかね(アイスホッケー)
令和4年(2022年)5、6月号	永井秀昭(ノルディック複合)

### 3 盛岡広域スポーツコミック「ぱるスポ」の主な掲載内容



発行時期	掲載内容
第1号(令和元年(2019年)8月)	岩手山ろくファミリーマラソン(雫石町)、チャレンジデー(葛巻町、滝沢市)
第2号(令和2年(2020年)2月)	あづまねマウンテントレイル(紫波町)、ラジオ体操会(矢巾町)、ルワンダ特集(八幡平市)
第3号(令和2年(2020年)3月)	いわて盛岡シティマラソン(盛岡市)、岩手町元旦健康マラソン(岩手町)
第4号(令和2年(2020年)8月)	スポーツパルポイント、もりおか近郊自然歩道
第5号(令和2年(2020年)12月)	健幸チャレンジ、フィールドXレース、岩手未来機構とのコラボ企画
第6号(令和3年(2021年)3月)	岩手町ホッケーの歴史、岩手未来機構とのコラボ企画
第7号(令和3年(2021年)7月)	岩手ビッグブルズ
第8号(令和3年(2021年)8月)	いわてグルージャ盛岡
※最終巻	

#### 4 ラジオを媒体とした盛岡広域スポーツ情報の発信

令和3年度	エフエム岩手 毎週金曜日 8:45～9:00			
	番組名「スポーツの力が未来を創る～盛岡広域圏の魅力発信～」			
		担当市町	放送日	放送内容
	1	葛巻町	5月28日	オリ・パラ関連事業（聖火リレー、パラ採火式）、スポーツツーリズム事業
	2	雫石町	6月4日	聖火リレー、復興ありがとうホストタウンであるドイツとのつながり
	3	矢巾町	6月11日	復興ありがとうホストタウンであるオーストリアとのつながり、カヌー代表の水本選手への応援
	4	八幡平市	6月18日	ホストタウンであるルワンダとのつながり
	5	滝沢市	6月25日	総合型地域スポーツクラブ「チャグチャグスポーツクラブ」
	6	岩手町	7月2日	ホストタウン、東京2020事前合宿の受入れ
	7	紫波町	7月9日	東京2020事前合宿
	8	盛岡市	7月16日	ホストタウン、東京2020事前合宿の受入れ
令和4年度	IBC ラジオ 毎月第2・4木曜日 8:45～8:52			
	番組名「スポーツの力が未来を創る」			
		担当市町	放送日	放送内容
	1	事務局	4月14日	北京冬季オリンピック銅メダリスト永井秀昭選手、盛岡からオリンピック金メダルを目指す吉田雪乃選手
	2	岩手町	4月28日	元ロンドンオリンピックホッケー代表の田中泉樹さん、ホッケーのまち岩手町
	3	葛巻町	5月12日	葛巻町の合宿補助制度、くずまき鍋の紹介
	4	いわてグルージャ盛岡	5月26日	菊池利三GMが試合の振り返り・チームが取り組む社会連携活動を紹介
	5	盛岡市	6月9日	盛岡・北上川ゴムボート川下り大会、啄木の里ふれあいマラソン、いわて盛岡シティマラソン
	6	八幡平市	6月23日	八幡平ヒルクライム、あっぱりレーマラソン
	7	雫石町	7月14日	アーチェリー日本代表の小野寺まどか選手、アーチェリーのまち雫石町
	8	滝沢市	7月28日	体操全日本種目別選手権4連覇 南一輝選手
	9	矢巾町	8月11日	ウェルベース矢巾の紹介
	10	紫波町	8月25日	自転車とバレーボールのまち紫波町
11	岩手ビッグブルズ	9月8日	横川俊樹主将が2022-2023シーズンのPR、チーム紹介	
12	盛岡市	9月22日	健康づくりアプリ「MORI WALKER」（モリウォーカー）の紹介	

## 5 研修会

平成 29 年度	「希望郷いわて国体・大会から東京 2020、そしてその先の未来へ～盛岡広域スポーツコミッションに期待すること～」 (公財) 岩手県体育協会副会長兼理事長 平藤 淳 氏
平成 30 年度	第一部：講演 「ラグビーワールドカップ2019™の成功と釜石シーウェイブスRFCの未来」 釜石シーウェイブスRFCゼネラルマネージャー 桜庭吉彦 氏 第二部：報告「ラグビーワールドカップ2019™釜石開催の成功に向けて」 岩手県文化スポーツ部ラグビーワールドカップ2019推進室 総務企画担当課長 松崎雄一 氏
令和元年度	第一部：講演「みんなで東京 2020 を盛り上げよう」 東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会国際局長 村里敏彰 氏 第二部：講演・グループワーク 「輝くボランティア～力を引き出すコーディネート～」 SUSPON ごみゼロ部会/NPO iPledge (アイプレッジ) ボランティアコーディネーター 山口記世 氏
令和 2 年度	「伝わる！効果的な SNS の使い方」 内閣官房 内閣広報室・IT 広報アドバイザー 石谷匡希 氏 (オンライン併用)
令和 3 年度	「東京オリンピック・パラリンピックを支える舞台裏」 岩手県立盛岡第三高等学校 塚田美和子 教諭 (東京 2020 オリンピック陸上競技でアナウンスを担当)
令和 4 年度	「スポーツ合宿地に選ばれるために」 (株) J ヴィレッジ 取締役 溝口文博 氏

## 6 スポーツパル交流会

平成 28 年度	第 1 回盛岡市スポーツパル会員交流会 ・日時 平成 29 年 (2017 年) 3 月 8 日 (水) ・場所 プラザおでって 3 階大会議室 ・内容 会員の活動報告、グルージャ盛岡・岩手ビッグブルズ選手との交流 ・参加者数 30 名
平成 29 年度	第 2 回盛岡市スポーツパル交流会 (カーリング交流会) ・日時 平成 30 年 (2018 年) 2 月 22 日 (木) ・場所 みちのくコカ・コーラボトリングリンク ・内容 講習会 (基本的なルール、氷上での滑り方、ストーンの投げ方、ブラシの使い方など)、ミニゲーム ・参加者数 26 名
平成 30 年度	第 3 回スポーツパル交流会 (地元プロスポーツをみんなで応援しよう！) ・日時 平成 31 年 (2019 年) 3 月 24 日 (日) ・場所 いわぎんスタジアム

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容 試合ボランティア、観戦、いわてグルージャ盛岡選手と写真撮影</li> <li>・参加者数 8名</li> </ul>
令和元年度	<p>第4回スポーツパル交流会（いわスタを楽しもう！）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日時 令和元年（2019年）9月7日（土）</li> <li>・場所 いわぎんスタジアム</li> <li>・内容 施設見学、ラグビー教室見学、ラグビーカナダ女子選手との交流、親善試合ボランティア</li> <li>・参加者数 9名</li> </ul>
令和2年度	<p>第5回スポーツパル交流会（岩山散策路）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日時 令和2年（2020年）11月7日（土）</li> <li>・内容 もりおか近郊自然歩道（岩山コース）の散策</li> <li>・参加者数 13名</li> </ul>
令和3年度	<p>第6回スポーツパル交流会（ボッチャをやってみよう！）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日時 令和4年（2022年）1月29日（土）</li> <li>・場所 ふれあいランド岩手 体育館</li> <li>・内容 ボッチャ研修・体験、ボッチャ試合</li> <li>・参加者数 7名※盛岡市スポーツ推進委員を除く</li> </ul>
令和4年度	<p>第7回スポーツパル交流会（完成間近の新野球場見学ツアー！）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日時 令和5年（2023年）3月21日（火・祝）</li> <li>・場所 きたぎんボールパーク、いわぎんスタジアム</li> <li>・内容 きたぎんボールパーク見学</li> <li>・参加者数 30名</li> </ul>

## 7 第1回住民意識調査

【調査名】盛岡広域圏のスポーツ施策に関するアンケート調査

【調査期間】平成29年（2017年）9月29日から10月20日まで

【調査方法】住民基本台帳から無作為で抽出された満20歳以上の盛岡広域8市町の住民

【調査内容】

- ・1年間にスポーツや健康を意識した運動の状況
- ・スポーツに対する考え方
- ・スポーツ施設について
- ・スポーツイベントについて
- ・スポーツを通じた地域の活性化への取組み

【回収結果】 1,172人（有効回答数 1,168人 有効回収率 38.9%）

### 調査結果の概要と今後の方向性

#### 1年間にスポーツや健康を意識した運動の状況

【調査結果の概要】

- ・調査結果において、性別や地域性に大きな差異はありません。
- ・全体の約70%の住民が、何らかのスポーツや運動を実施しています。また、全体の54.8%の住民が定期的（週1回以上）実施しています。

・実施していない理由では、「時間がない」が 53.7%と最も高く、年齢が高くなるにつれて「健康・体力に自信がない」が増えています。

#### 【今後の方向性】

・各世代のライフスタイルにおいて、空き時間でも簡単にできる運動強度の低い運動や体操などを提案・情報発信することで、運動実施に対するハードルを下げる必要があります。

・「健康・体力に自信がない」から運動できないという高齢者の割合を減少させるためには、高齢世代の健康維持・体力維持のためのプログラムの充実等が必要と考えます。

### スポーツに対する考え方

#### 【調査結果の概要】

・調査結果において、性別や地域性に大きな差異はありません。

・全体の約 90%以上の住民が、スポーツに何らかの形で興味関心を持っています。

・「することが好き」よりも「観ることが好き」の割合が上回っています。

・年代別の特徴としては、30代で「することが好き」が突出して高く、50代では「観ることが好き」の比率が高くなっており、子どもの年齢との関係性が深いと考えられます。

#### 【今後の方向性】

・「観る」の具体的な内容の確認が必要ですが、「身近な大会の観戦環境を整備する」、「プロスポーツや国際大会など地元でレベルの高いゲームを楽しむ機会を拡大する」の両面を視野に入れ、施策を進めることが必要と考えます。

### スポーツ施設について

#### 【調査結果の概要】

・新設又は大規模改修が求められるスポーツ施設について、地域によって大きな差異がありました。

#### 【今後の方向性】

・限られた財源の中で、各自治体がいかに効率的に住民ニーズに応えられるかの判断とともに、スポーツ施設を広域内で共有する仕組みやスポーツ施設の適正配置による効率的なスポーツ環境の整備のあり方の検討が必要と考えます。

### スポーツイベントについて

#### 【調査結果の概要】

・調査結果において、性別や地域性に大きな差異はありません。

・希望郷いわて国体・いわて大会への参加状況については、約 3 人に 1 人が国体に関わっていました。

・地元プロスポーツに対する期待については、「チームの活躍によるスポーツ意欲の向上」「地域の競技レベルの向上」「青少年への健全育成・実技指導」に期待する傾向が多くみられました。また、高齢者は「教育的な価値」、若い世代は「地域経済の活性化」に期待する傾向がみられました。

・東京オリンピック・パラリンピックに対する期待については、「スポーツに対する関心の高まり」「地元からのオリンピック出場選手の輩出」が高い期待となっており、特に年齢が上がるにつれて期待度が上がる傾向がみられました。

#### 【今後の方向性】

- ・盛岡市が導入しているスポーツパルの仕組みを広域自治体に拡大し、スポーツボランティアに関する情報発信力の強化が必要と考えます。
- ・地元プロスポーツチームのホームゲームの運営支援や、チームによる実技指導等の地域貢献活動機会の場づくりが必要と考えます。
- ・地元からの東京オリンピック出場選手の輩出は、オリンピックを応援する大きな機会となり、オリンピックをより身近に実感できることから、「エイト・オリンピアンズ・プロジェクト」のさらなる推進を図り、住民に対するオリンピック開催の機運醸成が必要と考えます。

#### スポーツを通じた地域の活性化への取組み

##### 【調査結果の概要】

- ・調査結果において、性別や地域性に大きな差異はありません。
- ・「8市町が連携した効率的なスポーツ施設の整備（スポーツの場づくり）」「スポーツに親しむきっかけづくり（講座・教育の充実）」「地域の競技力の向上や有望選手への支援」「プロスポーツなど高レベルな試合（プロ野球など）の開催」が地域活性化を図るために必要と考える傾向がみられました。

##### 【今後の方向性】

- ・スポーツを通じた地域活性化には、第一に、住民がスポーツに親しみ、スポーツを通じて健康でいきいきと暮らすことができる環境づくりが必要不可欠と考えます。
- ・プロスポーツやスポーツイベント等の誘致・受入れの取組みを通じて、地域経済への波及や盛岡広域の知名度向上等の効果を生み出し、住民が自身の市町に誇りと愛着が持てるよう、盛岡広域の魅力のPR強化が必要と考えます。